

地域音楽コーディネーター養成講座【11月】

①「生涯学習と音楽」

地域音楽コーディネーターと学校部活動の地域移行について

東京経済大学客員 教授、放送大学 非常勤講師

久保田 慶一

1. 生涯音楽学習指導から地域コーディネートへ

(1) 生涯音楽学習とは

・「生涯発達の様々な段階で音楽学習を継続する」ことです。義務教育や高等学校では「教科としての音楽」として音楽を学びますが、継続教育、成人教育、社会教育においては、生涯学習の一環として音楽を学び、音楽活動を展開します。

・生涯音楽学習を継続する場所は、学校、地域コミュニティー、職場などがあります。

(2) 生涯音楽学習の難しさ

・生涯学習の理念：1965年にポール・ラングランによって提唱されました

・平均寿命が延びて、職業期と余生期が長くなる＝「ライフシフト」

社会の物質面・精神面の環境が急速に変化していることから、継続教育やリカレント教育の必要性は高まる

長期的なキャリア・デザインの難しさ：「ドッグ・イヤー」

自然災害(東日本大震災など)、世界的金融危機(通称、「リーマン・ショック」)、コロナ・パンデミック、

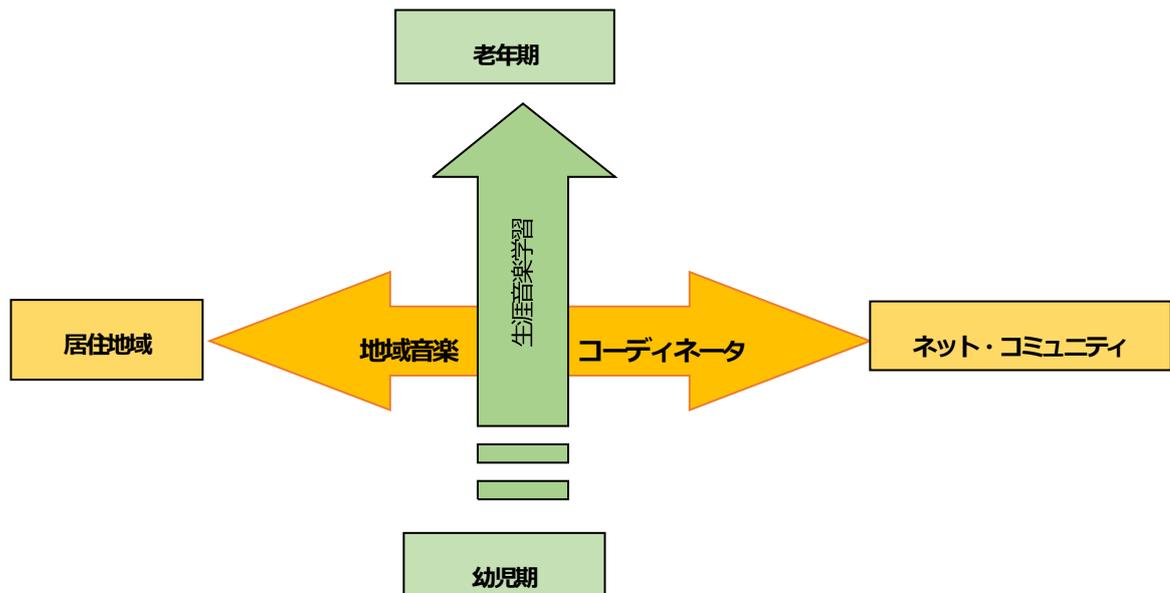
戦争(ロシアのウクライナ侵攻) → キャリア・デザインの難しさから「虚しさ」

インターネットの発達：生成AIの発達

・「ライフステージの細分化」

(3) 生涯から地域へ

- ・将来の不安を解消する手段として、人間関係、とりわけ地域での人間関係（コミュニティー）
- ・生涯音楽学習から地域コミュニティー音楽へのシフト
- ・時間軸から面の広がりへ：行政区分を超えて、ネット・コミュニティーの世界まで



2. 地域をコーディネートする

- ・地域に存在するコミュニティー形成の場所（学校、公民館、ホール、美術館、福祉施設、病院 etc.）
- ・音楽資源を活用できるように、地域の活動の場所をつなぎあわせます
- ・音楽でコミュニティーを活性化し、人々に音楽のすばらしさを伝えます

3. 地域音楽コーディネーターに求められる資質

- ① 時代や社会の変化に対応する
- ② 学習者の年齢や環境を考慮して、さまざまなニーズに対応する
- ③ 音楽指導者にはさらに次のような技能も求められるでしょう。
 - a.音楽的技能＝演奏、作曲、即興、アレンジ
 - b.付加的技能＝企画、提案、マネジメント、調整

特集：音楽の力で地域をつくる —音楽文化の創造—

地域に展開する多様な音楽が取り持つ縁でつながる場・空間

文化ホール・公会堂

コンサート・発表会

放送大学

音楽講座

生涯学習センター

音楽講座
コンサート・発表会

大学開放・地域連携

音楽講座・コンサート・発表会
芸術・文化コース

博物館

楽器博物館・展示・
音楽科学講座・コンサート

女性教育施設 青少年教育施設

音楽キャンプ・音楽合宿
夏休み事業・体験学習

図書館

CD、音楽図書
読書会・コンサート

公民館

音楽関連の社会教育講座
公民館の音楽事業・講座
公民館まつり
自主音楽グループ・団体の活動

国際交流・演奏旅行

各種団体の発表会・コンサート
自主音楽サークル・団体

保育園 幼稚園 こども園 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校 大学

地域学校協働活動
施設開放の音楽事業・講座
PTAコーラス
余剰教室の活用
土曜日活動
放課後活動
音楽部活動
発表会
コンクール・フェスティバル参加
ボランティア活動

地域音楽コーディネーター

地域

地域の文化祭・音楽祭
まつり・各種イベント
音楽ボランティア活動の場
学習成果の発表の場
各種団体の発表会・コンサート
任意の音楽サークル・団体
アマチュアオーケストラ団体
音楽による青少年育成活動

民俗芸能・伝統芸能

青年団による民俗芸能活動
地域の伝統芸能保存会活動

音楽教室

カルチャーセンター
個人教授
学習成果の発表の場
各種団体の発表会・コンサート
自主音楽サークル・団体
楽器店

4. 地域音楽コーディネーターと学校部活動の地域移行

(1) 学校部活動の地域移行

- ・公立学校の教員の働き方改革

背景：教員の業務の増大、残業時間数の増大（+教職調整額による一律支給）

教員の業務の増大を招いているひとつの要因が部活動の指導（とりわけ土・日曜日の指導）

少子化に伴い、学校単位での活動の継続が困難になっている文化部活動

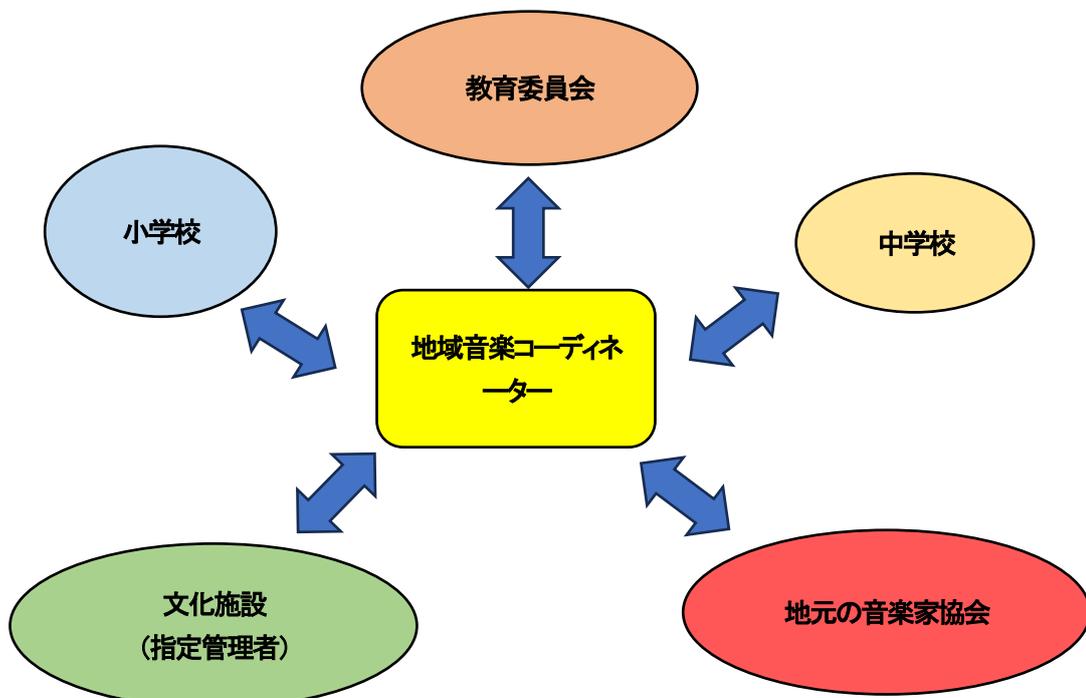
- ・学校の文化部活動を地域の文化芸術活動に移行させる

(2) 移行に伴う課題

- ・指導者の養成：児童・生徒の教育の一環であることから、指導者に教育者としての資質が求められる
- ・地域の文化施設等の連携

(3) 文化庁による検証事業の実施（令和5年度）

- ・地域移行のモデル（埼玉県F市の例）



5. 部活動の地域移行における地域音楽コーディネーターの教育的役割

- ・地域移行を教員の「働き方改革」の視点ではなく、子どもと地域の視点から見る必要性
- ・子どもが学校から地域社会に移ることで、そこから子どもたちと地域の大人たちとの出会いが生じる
- ・子どもがやがて大人になり、地域の担い手となっていくという社会教育の場となるはずである
- ・教育者としてのトレーニング（研修）も必要となるであろう